

令和4年度 農業技術研究センター試験研究成果発表会 質問に対する回答

(令和5年1月30日に開催した成果発表会の時間内に回答できなかった質問について回答します)

1 水稲「彩のきずな」の食味向上技術の開発

質問	回答
<p>彩のきずなの良食味栽培について質問です。 今後、県の取り組みとして、今回の研究成果に基づいた栽培を行った「彩のきずな」と普通の「彩のきずな」の扱いを分けるような施策を検討されていますか？青森県の「青天の霹靂」のようなイメージです。</p>	<p>食味向上技術を用いた栽培と通常栽培の生産物の取り扱いを分けることは現時点では検討しておりません。 なお、極良食味生産については、うまい米推進協議会で実証展示ほを設置し、本研究の成果を活用しながら、推進しています。</p>

5 ネギにおけるネギネクロバネキノコバエの防除方法の改善

質問	回答
<p>ネギニ防除体系について質問させて下さい。今回検討した防除体系で供試した薬剤を可能な範囲で教えてください。</p>	<p>・ネギのネダニ類防除については、下記の方法が有効です。 ①定植時に粒剤処理を行う。 薬剤例：「フォース粒剤」 ②生育期にネダニの被害で坪枯れになった場合、スポット的に株元灌注を行う。 薬剤例：「トクチオン乳剤」(※「ねぎ」の「クロバネキノコバエ類」の登録はありません。)</p> <p>・ネギのネギネ防除について、今回検討した防除体系で供試した薬剤は下記のとおりです。 ①定植時の粒剤処理 薬剤例：「フォース粒剤」、「ベストガード粒剤」等 ②生育期の粒剤処理 薬剤例：「スタークル粒剤」または「アルバリン粒剤」 ③生育期の灌注処理 薬剤例：「デミリン水和剤」、「スタークル顆粒水溶剤」または「アルバリン顆粒水溶剤」 ④生育期の散布処理 薬剤例：「カスケード乳剤」、「グレーシア乳剤」、「ベストガード水溶剤」等 ※ネギネの農薬の適用病害虫名は「クロバネキノコバエ類」です。 ※農薬の使用時には、最新の登録内容を確認し、使用基準を遵守してください。</p>

7 4～5月収穫のタマネギマルチ移植栽培

質問	回答
<p>タマネギマルチ移植栽培ですが、気象状況と土壌水分の関係はどのようなのでしょうか？気象状況より直接的な土壌水分の数値の方が重要なのではないのでしょうか？</p>	<p>ご指摘のとおり、土壌水分の直接的な数値がタマネギマルチ移植栽培において重要であると考えております。現在、灌水試験でpF値の測定を行っております。具体的な数値がまとまりましたら、情報提供させていただきたいと考えております。</p>

10 ネオニコチノイド系殺虫剤の河川への流出実態

質問	回答
<p>(1)調査農薬は水田使用だけですか？越辺川本流では畑使用のものもあると思いますが、何か区別する方法はありますか？ (2)クロチアニジンがチアメトキサムの代謝物としても検出されますが、ご発表の中では特にクロチアニジンについてはそのものの可能性が高いですか 以上、よろしくお願いします</p>	<p>(1)調査水田群上流に調査地点を設けており、上流からの流入が少ないことを確認しています。 実際の調査地点における農薬使用時期と濃度のピークから水田由来であると類推しています。 (2)本調査においては、チアメトキサムは低濃度であったため、チアメトキサム由来のクロチアニジンについて確認できませんでした。使用量から類推するとクロチアニジンそのものの流出と考えます。</p>
<p>使用量と流出量でマスマバランスはだいたい取れているのでしょうか？</p>	<p>毎回の現地調査で測定した流速をもとに比流量を、定点での水深測定をもとに河川の断面積を求めることで調査対象地域における農薬の推定流出量を求めています。また、農薬の推定使用量についても求めており、流出率も算出しています。流出量は使用量よりも少なくなっており、各農薬について毎年同様の傾向となっていることを確認しています。</p>

11 予察調査から見えるカメムシ類の発生動向

質問	回答
<p>大豆のカメムシ類の防除は薬剤を予防的に散布するのと、発生が見られた場合に速やかに散布するのとどちらが効果があるのでしょうか。また、圃場によって発生状況が異なる場合は、圃場ごとに散布時期を変えるのと、地域全体で一斉防除するのはどちらが効果があるのでしょうか。</p>	<p>カメムシ類は、多発年とそうでない年の発生量の差が大きい害虫です。そのため、予防的散布を行った場合、薬剤抵抗性が発達しやすくなったり、農薬の過剰散布につながったりする可能性があります。また、毎年被害が確認される地域では、残効の長い殺虫剤の利用も考えられますが、散布直後に高い防除効果を発揮します。このため、大豆の生育状況を考慮し、発生後に速やかな散布を行うことが効果的と考えます。</p> <p>ほ場によって発生状況が異なる場合、近接したほ場で生育ステージが似ているのであれば、一斉防除※も効果が高いと考えられますが、同じ地域内でもやや離れたほ場であったり、生育ステージが異なったりする場合は、個別のほ場ごとに散布時期を変える方が良いでしょう。薬剤防除以外にも、地域全体ではほ場周辺の雑草を除草するなどの対策も有効ですので、併せて取り組んでみてください。</p> <p>※同じ日や、同じ期間内にまとまった地域のほ場で薬剤散布すること。</p>